

城生柵跡 (じょうのさくあと)

所在 地 宮城県加美郡加美町城生字館の内外

指 定 国指定史跡 昭和 54 年 5 月 18 日

概 要

中新田地区の北西部に位置し、玉造・加美丘陵の先端部に立地しています。標高は 40m、南に広がる鳴瀬川流域平野との比高は 10mほどです。

昭和 30 年に、本遺跡の東 1 km に所在する菜切谷廃寺跡の発掘調査が行われた際に発見されました。昭和 52 年から平成 8 年まで発掘調査が行われ、古代陸奥国府多賀城の創建と同様に 8 世紀前半に築かれた城柵跡であることが判明しました。遺跡の規模は東西 350m、南北 370mで、周囲に大溝を伴う築地塹（土塹）がめぐり、北辺の中央に北門があります。内部は溝で区画され、実務的な政務を行う施設、米を収納する正倉等から構成されています。

